

未来への伝承

土浦城は別名亀城とも呼ばれていますが、同じ異名を持つ城が、もう一つあります。それが、今回紹介する田中城です。

田中城は駿河国(現静岡県藤枝市)に存在した、本丸を中心に三重の堀を持つ平城です。このような景観から、別名亀城とも呼ばれています。

土浦藩土屋家第二代藩主の土屋政直が田中城を訪れたのは、天和元(1681)年12月14日です。政直は、田中城主酒井忠能(1628～1705)の改易(領地没収)にともない、城明け渡しの上使(上意伝達の使い)を命じられていました。忠能の兄忠清は、四代將軍徳川家綱の代に、大老として政治の実権を握っていましたが、家綱の死後はその職を退きました。弟忠能の改易は職務怠慢などが理由とされていますが、兄の失脚が要因であったとも言われています。

城の受取役であった仙石越前守政明(1659～1717)とともに、田中城を訪れた政直は、総勢1511人の家臣を引き連れていました。城内に家紋三石畳をあしらった軍幕を張ると、政直のそばには近習や中

土屋政直、亀城へ赴く

— 駿州田中城御受取之図 —

小姓などの家臣が控えました。受け渡しの細かな状況は不明ですが、絵図には軍幕のそばに長刀や長柄などの武具が描かれています。また、城門の外にも政直の家臣が各所に布陣し、大筒や鉄砲などを備えていた様子も描かれています。いずれも簡略な描き方ですが、受け渡し時の緊張感が窺えます。

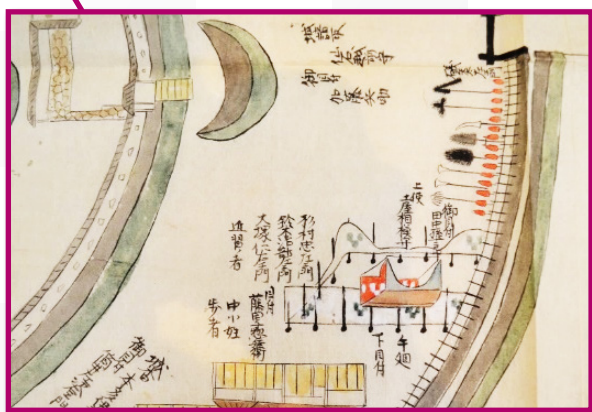
翌年1月4日に城の受け渡しが終わると、2月12日には、政直は土浦藩から田中藩へ転封となりました。この後、大坂城代や京都所司代を務めた政直は、貞享4(1687)年に老中に就任すると、再び土浦藩へと転封を命じられました。5年という短期間ではありましたが、政直は田中城主としての歴史も遺しました。

土浦城と田中城。2つの亀城は、政直にとって思い入れの深いものであったのかもしれませんが。博物館では12月27日(日)まで秋季展示を開催しています。今回紹介した「駿州田中城御受取之図」も関連史料とともに展示しています。ぜひ足をお運びください。

■市立博物館(☎824・2928)



駿州田中城御受取之図(個人所蔵)



軍幕部分拡大「上使 土屋相模守」が政直